

地域における幼児教育施設の役割について

1 有識者検討会の要旨

- ・ 地域の子供に幼児教育の機能と施設を積極的に開放し、様々な家庭や年齢層の子供が学びの環境に関わることができるようにすることが重要。
- ・ 幼児教育施設と家庭・地域がそれぞれの有する教育機能や役割を発揮することが必要。保護者の家庭での養育等の重要性についての普及・啓発が重要。

<有識者検討会報告書に記載の具体的取組>

- ・ 園庭や園舎の開放
- ・ 未就園児の親子登園
- ・ こども誰でも通園制度（※）
- ・ 子育て・教育相談、情報提供
- ・ 保護者同士の交流の場の提供
- ・ 家庭での養育等の重要性の普及・啓発

※ こども誰でも通園制度：0歳6か月～満3歳未満で保育園等に通っていない子どもを対象に、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず保育園や幼稚園で預かりを行う事業です。

2 区の現状

- ・ 区立幼稚園では全園で未就園児の会や降園時間後の園庭開放を実施しており、私立幼稚園においても、園により同様の取組を実施しています。
- ・ 教育委員会では、家庭での養育等の重要性の普及のため、「家庭で大切にしたいことハンドブック」を作成し、保育園や幼稚園等の保護者へ配布しています。

3 区が捉えている課題

- ・ 令和7年度から制度化されるこども誰でも通園制度については、需要や施設状況、人員配置等の課題を整理する必要があります。
- ・ 地域の教育のセンターとして、在園児のみならず地域の子どもや保護者により身近に感じ活用していただけるよう、未就園児の会の取組拡大や情報発信の強化が必要です。
- ・ 家庭教育の重要性について、更なる情報発信が必要です。

4 第1回・第2回検討会で出された主な意見

(1) 幼稚園の質の向上について

- ・ 子どもの生活の質、幼児期にどれだけ幸福な生活を確保するかであり、その結果、幼稚園就園率が上がれば良い。
- ・ 子どもが子どもを育てるのがとても大事な時間であり、上の子が下の子の面倒をみるというコミュニティが幼稚園でできればと思う。
- ・ 幼児期の育ちで大切なのは、遊びの中での学び。遊びを追求する、主体的に取り組む、主体的に考えられる環境を幼稚園が整えることが大切。

- ・子どもたちの生活の質を上げていくことが重要。具体的には、子どもの主体的な判断を大切にしており、遊びでも何でも「やりたい」ということをやらせてあげるようにしている。
- ・教育環境を充実するためには、より良い教員を確保していくこと重要。また、学級規模の縮小も必要だと考えている。
- ・子どもが遊び込める環境づくりが重要であり、園庭で四季を感じながら五感を使っていろいろなことを自分で感じるということがとても大切だと思う。
- ・保護者への通知など、ICTをより有効に活用した運営が必要。

(2) 家庭（親）教育について

- ・地域の幼稚園として、親を育てていきたいという気持ちがある。
- ・「親も一緒に学び育ちあうこと」が大切と考えている。
- ・幼児期の育ちとして、なぜ遊びが大事なのかということが広まっていない。英語教育や学習面の強化を大切と考える家庭も多い。遊びが大切だということを広めてほしい。

(3) 幼稚園の良さ、PRについて

- ・幼稚園存続に向け幼児教育の大切さを訴えていきたいと考えている。
- ・ホームページやSNSに情報がなく、ブログなどにも魅力を感じなかったの
で、情報発信を多くしてほしいと考えている。
- ・幼稚園には、四季折々の移り変わりを感じながらたくさんの経験ができる環境が整えられている。そうした良さを効果的にPRしていくことが重要。
- ・20～30代に影響力があるインスタグラムなどを活用し、幼稚園の魅力をPRするのも良いと考えている。

5 港区の幼児教育においてあるべき方向性

<各委員から1人3分程度でご意見を伺います。>

委員それぞれのお立場で考える、今後の方向性等についてのご意見をお伺いします。